

GLC 花とみどりの相談

ご自分で管理をしていれば、育て方や病気、害虫のことなど、いろいろな疑問が出てきますね。

そんな時はご相談ください。気さくな相談員が、ていねいにお答えします。

さらに、「植物の名前を知りたい」「自宅の庭に合った植栽プランを立てたい」など、なかなか自分だけでは調べにくいことも、解決しやすいはずです。



GLC 講座・講習会

季節の草花の育て方のほか、ハーブ類についての講座もあります。園芸植物の育て方や増やし方はもちろん、利用法や歴史などにもふれていきます。特に、初心者の方にあわせて講義を進めていきます。

また、心地よい香りのハーブを使った「リース作り」や、「植物クラフト講座」など、さまざまな植物を利用した楽しみ方を提案していきます。



多摩市立グリーンライブセンター

多摩市環境部公園緑地課

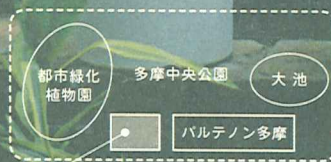
206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園内
TEL.042-375-8716 FAX.042-375-0087

開館時間 9:30~18:00 (10/1~3/31は~17:00)

休館日 毎週月曜日と第4火曜日(月曜日が休日の場合は翌日)と
年末年始(12/29~1/3)

入館料 無料

花とみどりの相談 9:30~16:30 (12:00~13:00を除く)
TEL.042-375-8792



多摩市立
グリーンライブセンター



京王線新宿駅から急行で約30分

小田急線新百合ヶ丘駅から約15分

多摩都市モノレール立川南駅から約20分

京王・小田急
多摩センター駅

京王・小田急・多摩都市モノレール多摩センター駅より徒歩7分
(駐車場はありません。駅周辺の共同駐車場をご利用ください。)



多摩市立グリーンライブセンター





多摩市立グリーンライブセンターは、東京の郊外・多摩ニュータウンにある小さな植物園です。

南側の庭「ロマンチックガーデン」は、「身近な園芸・小庭園の提案」をテーマに、溶岩の壁（ロックガーデン）とウッドデッキに囲まれたエリアに、ハーブや野菜、季節の草花、花木など年間のべ2万株を展示しています。散策のほか休憩やランチにもお気軽にご利用ください。

光のあふれる温室「ピラミッドギャラリー」では、一年中緑を楽しむことができ、やわらかい陽射しの中ゆったりとした時間を過ごすことができます。

多目的スペースの「ライブホール」では、植物の育て方やフラワーアレンジなどの講座、植物にまつわる展示などが行われています。相談コーナーでは、専門の相談員が植物に関するさまざまなご質問にお答えします。



相談コーナー

花とみどりの相談は、9:30～16:30（12:00～13:00を除く）です。また図書コーナーでは、自由に書籍を閲覧できます。



ライブホール

ウッディな色彩とその木肌のぬくもりの質感で、親しみやすいホールです。講座もここで開かれています。



ウッドデッキ

木でできたデッキの上を歩くとハーブの香りが漂ってきます。「あずまや」の下、ちょっとおしゃれなテラスでティータイムなんていかがですか。



ロマンチックガーデン

季節ごとに、きれいなお花や珍しい植物など、年間2万株で彩られた花壇をぜひご覧下さい。



都市緑化植物園

多摩中央公園の東側の外周路に沿って、おもに樹木を中心にいろいろな植物を見ることができます。約40,000㎡の広さがあり、「雑木林」「県木の道」「生垣見本園」「梅の谷」など、複数のエリアに分かれています。



ピラミッドギャラリー

育て方が容易な身近なグリーンを中心に展示しています。毎月1回鉢花を入れ替えています。たまにめずらしいものが、あるかもしれませんので、要チェックかも。



第7期 グリーンボランティア講座の 受講生募集！

雑木林など「みどり」の育成、管理、保全に
関心のある方！を募集します



Green Volunteer

市では、人と自然が共存できるまちづくりを目指して、「みどり」に関する市民活動を積極的に推進し、公園、緑地等を自発的、主体的に維持、管理、活用していただく、市民ボランティアの育成に取り組んでいます。実際にボランティア活動を行っている市民の方々と協働して、グリーンボランティア講座を開催しています。

応募方法

- 🌿 講座内容 「みる」「きく」「やってみる」をキーワードに実習を主体にした講座で、雑木林の育成管理、竹林整備の実習、苗木やシイタケの菌の植付け、腐葉土づくり、公園等の「みどり」の観察・植生調査などです。
- 🌿 講師 ・「みどり」のボランティア活動団体（しんぼくかい森木会の市民等）
- 🌿 会場 ①多摩中央公園 ②一本杉公園 ③和田なな山緑地 ほか
- 🌿 対象 ・高校生以上の多摩市内在住、在勤、在学者
- 🌿 定員 ・40名（応募者多数の場合は抽選）
- 🌿 参加料 ・3,000円
- 🌿 申込み 住所・氏名・電話番号を明記し、多摩市立グリーンライフセンターあてにハガキで郵送、またはFAXでお申込みください。
(FAX 375-0087)
- 🌿 締め切り 19年11月20日(火) までに必着
- 🌿 申込み先 〒206-0033 多摩市落合2-35 多摩市立グリーンライフセンター
- 🌿 問合せ先 ・多摩市立グリーンライフセンター 電話 042-375-8716
・多摩市環境部公園緑地課みどりの係 電話 042-338-6837



グリーンボランティア 講習会

1. 開催日時 平成20年1月から平成20年10月の毎月第4土曜日
午前9時30分より（活動内容により午後3時頃まで）

2. 講師・コーディネーター

「みどり」のボランティア活動をしている市民の方々
・川添 修（都環境学習リーダー）・赤羽 誠（長池里山クラブ）ほか

3. 主 催 ・多摩グリーンボランティア^{しんぼくかい}森木会 ・多摩市環境部

4. 講座内容（予定）

回	月 日	講座概要	講座内容
—	19年12月8日(土)	入講式	講座内容の説明・講師等の紹介・今後の進め方
1	20年1月26日(土)	実習1	山始めの神事、萌芽更新（伐採）
2	2月23日(土)	実習2	萌芽更新（伐採）→ホダ木づくり、落ち葉掃き ・腐葉土置場づくり
3	3月22日(土)	実習3	シイタケ菌の植え付け体験・苗木の植付け
4	4月26日(土)	実習4	マント群落の説明・植物観察・草刈
5	5月24日(土)	施設見学	多摩市周辺の「みどり・活動団体」の見学
6	6月28日(土)	講義・調査	植物の生態、雑木林内の植物観察
7	7月26日(土)	講義・実習5	竹林などの整備・植生調査
8	8月23日(土)	講義・実習6	土と土壌生物について、腐葉土づくり
9	9月27日(土)	講義・実習7	植生群落調査・ホダ木並べ替え
10	10月25日(土)	修了式・実習8	雑木林管理計画立案・修了証授与

5. 実習場所 ・多摩中央公園 ・一本杉公園 ・和田なな山緑地 ほか
講義等は多摩市立グリーンライフセンター（多摩中央公園内）を予定

森

第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：山始めの神事と萌芽更新

作業場所：G.L.C 中央公園

一本杉公園

本文担当：岡田

編集担当：小俣

当日は 3 月下旬の暖かさとなり、これからの活動は里山での体験を通して日常では得られない何かを気付かせてくれそうな気がした一日でした。

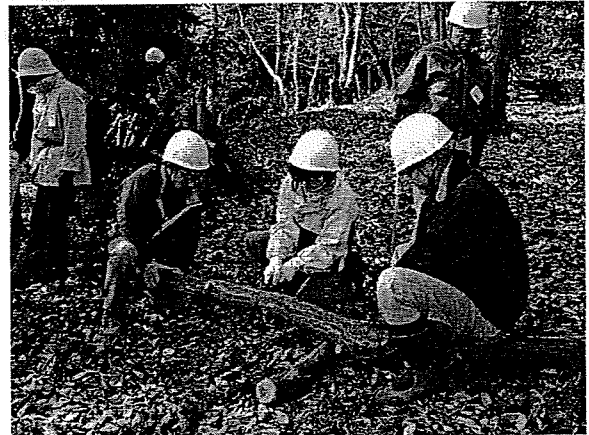
● 午前 樹木の伐採から玉切りにして後処理まで

中央公園。樹木の伐倒の仕方、道具の使い方などの説明を受けながら皆で作業を進める。伐倒した木はたらの芽の一種の木だそうで今は枯れているが、本来はとげがある木。目通り周 96cm、長さ(木の高さ)10m、年輪 22 年。

倒す方向にロープを掛け、木を切りロープを引く。木を切るときはロープを引かない。だから木を切る人が声を掛け、ロープを引かせる。10m 近くもある木がバタンと倒れたときは、無心の驚きを共有できたのではないかと思います。

一本木を切り倒し細枝は短く処理して主木になる太い幹は全員が交代でのこぎりですしずつ切り、玉切りにして、伐倒した木の後処理を行う。

玉切にするとき、のこぎりを一人一人各自少しずつ引いていくが、なかなか難しい。のこぎりの取っ手は手前でなくて後ろのほうを握り、引くときに力を入れてゆっくり切ると良い。

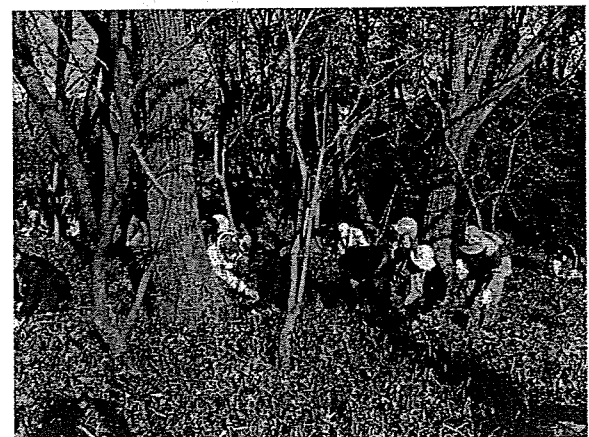


● 午後 下草刈からカマの研ぎ方

一本杉公園。雑木林といったの笹を刈り取った。落葉樹の下草に生息している笹の刈り取り方の説明を受けて土の中の根から刈り取り作業をする。落葉樹の茶色く枯れて地面に落ちた葉の中に笹の茎は埋もれている感じがしたが、葉は青々していて根も刈り取るのに力があるくらい根張りしていた。

最後にかまの研ぎ方を各自教えていただいて実際研いで終了となった。

落葉樹の落ち葉をかざしてクヌギの葉、コナラの葉の違いを教えていただく。



● 編集後記

雑木林は毎日見ている、身近なものでしたが、木を切ったりカマを使うのは初めての体験で疲れもしましたが、新鮮な喜びのほうが大きかったです。のこぎりも一人でやり続けると疲れるだけだけど、程よく交代してやると、疲れすぎず体も冷えすぎずちょうど良いのが分かりました。

梅

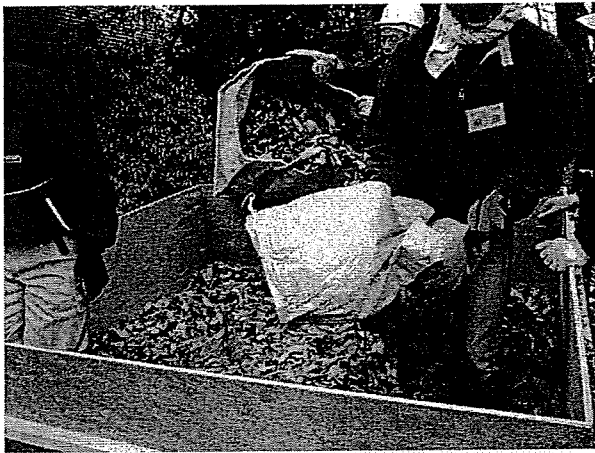
第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：腐葉土作り・伐倒

作業場所：一本杉公園(加藤家の南東の南斜面)

編集担当：穂苅(三班)、小俣(編集)

前日降った雨も上がり晴天。しかし、北風が雑木林の落ち葉を巻き上げ、時おり裸の高木の梢を大きくしならせる寒い一日でした。作業は一・二班の合同班と三班の二手に分かれて行いました。



●午前 腐葉土置場作りと腐葉土作り

腐葉土置場は、コンパネ板4枚で囲い込み、杵材8本を使って固定したもの。すでに作られてある物を見てから作業に入ったが、板に取付ける杵材の位置決めで四苦八苦。寸法が合わないと四隅の杵材が噛み合わずうまく囲えないことになるので何度も寸法を確認。杵材の固定にはドライバドリルで木ネジを打ち込むのだが、初めての人にはネジが倒れたり空転したりで一苦労。何事も経験第一で、交代で作業を行う。4枚の板を組み立てると見事に組みあがり、思わず歓声上がる。落葉を熊手でさらい集めて、腐葉土置場に入れて踏み

固める。落葉を集める際に、葉が密に重なり合うようにかき寄せる妙技が世話人から披露され、昔の柚人(そまびと)の知恵に感嘆。

●午後 伐倒、枝切りと玉切り処理

倒す方向の決め方、受け口の入れ方、追い口の入れ方、ロープの張り方などの詳しい説明があった。ロープは出来るだけ高い位置に掛けること、滑車を掛けて引く方向を定め、倒れる危険性のある三角地帯には立入らないことを肝に命ずる。目通り周 50cm の栗の木と、同 46cm のコナラの木を倒したが、栗の木はのこぎりの入るスピードが遅く、硬い材であることを実感。樹高 16m の木が倒れた時の衝撃の強さには思わず息を呑む。コナラの木は梢が隣の木に引っかかり、強く引いても簡単には倒れず、根元側を持ち上げ引き倒す妙技を見せていただいた。倒す方向を見定めていても、思い通りにはいかない難しさを実感した。倒木はシイタケ栽培用として長さ 80cm 程度の長さに切りそろえて積み上げた。



●編集後記

梅が満開の季節となり、早春の花がいくつか目につきました。遠目には黄色の梅の花が咲いたような「サンシュユ」、黄色の糸状の花弁4本が伸びた「マンサク」の花、長さ 10mm 程度でピンク色のラッパ状に咲いた「ウグイスカグラ」の花など。これから色々な樹木が開花していくので楽しみです。

楽

平成 19 年 3 月 24 日号

第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：クヌギ苗の植付け、シイタケ菌の植付け

作業場所：一本杉公園とその周辺

編集担当：小俣(編集)

雨が降るかと思ったけど今回も天気はもってくれました。

●午前 クヌギの苗付け

まず、ベニヤ板の中央に穴を開け、のこぎりで苗を通せるように切れ目を入れる。これはあとで苗の周りの



土をベニヤ板で覆うために使う。これにより、病原菌から苗を守ったり、雑草の発生を抑えたり、水分調整やいろいろメリットがあるそうだ。苗付けは道路脇の斜面に竹で横 2m 縦 2.5m くらいの間隔を確認して始まった。位置が決まったら、その竹を抜いて穴を掘る。穴はシャベルでひと掘りできる大きさ。掘った穴の壁はきちんとほぐす。穴の底は中心を高めにしてその上に苗がくるように腐葉土と一緒に入れる。穴の中に生の草木は入れないようにする。それらを腐らせるために微生物が熱を発するので、その熱で苗は焼けてしまうそうです。そして、残りの隙間に掘った土を戻し、竹で固める。隙間には病原菌が溜まりやすいので隙間はしっかりと埋めるようにする。それが終わったら板で苗の周りの土を覆い竹ペグで固定する。最後に位置を決めた竹を土に挿して苗を固定する。

苗は 3 年物のクヌギで最後に計った高さは 100cm から 150cm くらいだった。大きくなるのが楽しみ。

●午後 シイタケ菌の植付け

シイタケ菌の植付けはホダ木に電動ドリルで穴を開け、そこにシイタケ菌を詰めて金槌で打つ。土の上に落としたシイタケ菌は使わない。なぜなら他の菌に負けてしま



まうから。実際に収穫できるのは 1 年半後というので、講座ではそこまでできないそう。でも、前の人たちの駒打ちしたもの置いてあって、その中にはシイタケが生



えているのもありました。なんとなく、前の人たちとの繋がりを感じました。

●編集後記

今回は苗を植えたり駒打ちしたり育てていくのが始まるようで今までとは違った春を感じました。とりあえず、自分の植えた木が雑木林をより身近にしてくれたのがうれしかった。

森

第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：雑木林の管理について野外講座。

実習林内の植生観察、刈払機の使用。

作業場所：和田緑地保全の森

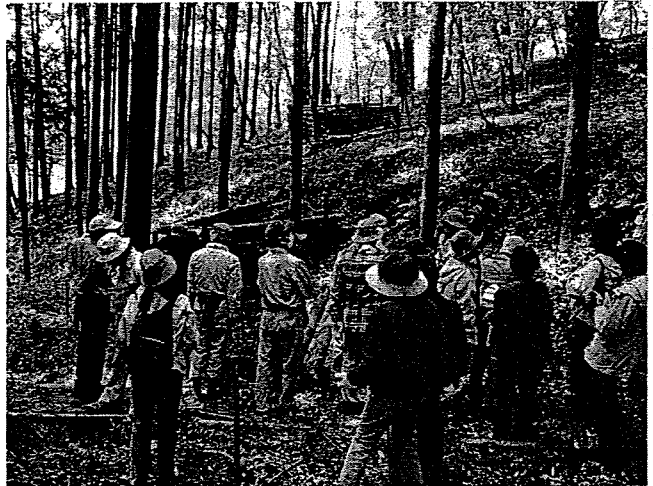
本文担当：永井

編集担当：小俣

午前中は初夏を思わせる絶好の作業日よりでした。緑地の中でいただく昼食にも和やかな会話が弾みました。午後もこの調子でもってくれればと思いきや、予報どおり一転にわかには掻き曇り、大粒の雨が降りだしました。雷雨の中でバスを待つ時間の長かったこと……

●午前：緑地内での座学が行なわれる。和田緑地の元地主さんから現在の“和田緑地保全の森”に至る経緯や里山の暮らしの説明があった。また、現在ここを管理されている“なな山緑地の会”より活動について説明され、里山（人工林）として整備管理していく場所と自然のまま残して行きたい、謂わば“サンクチュアリ”的な場所を区別して管理されていることも説明された。多様な生態系を創り出すことを目的とされているようだが、都市近郊で数百年、1千年先の極相を夢見るのも悪くはないであろう。

植生観察には絶好の季節でもあり、キンランの美しい花がいたるところに見られ、多摩の植生の多様性にも触れることができた。フィールドで見かけた主な野草：キンラン、ナルコユリ、ハウチャクソウ、チゴユリ、エビネ、ヤマホトトギスなど。



●午後：斜面の下草、アズマネザサ刈りを行なった。貴重な植生がないか慎重に見ながらの下草刈りは結構腰にくるが、可愛い野草を見つけた時の喜びはひとしおである。下草刈りの後は、刈払機の使い方実習が行なわれた。指導を受けながら初めて操作したが、意外とやさしかった。市内の団地管理組合では刈払機の導入について慎重なところもある。事故を恐れてのことであるが、実習を重ねて適正に使用され、さらに保険でカバーされれば問題ないものと思われる。最後は、大粒の雨が振りだしてくる中、鎌研ぎなど道具の整理をして解散した。

●編集後記：今回も、緑地保全の活動にはさまざまな意見、方法があり、これがベストというものはないという説明があった。生物に多様性があるように、人の考え方にも様々な意見がある。ボランティアを組織する上で、活動方針を集約する難しさをあらためて感じた。



楽

第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：長池公園について講習・観察・笹刈り

作業場所：八王子長池公園

編集担当：穂苅(三班)、小俣(編集長)

前日の雨もすっかり上がり、初夏の強い日差しの下を長池公園に向かう。開発が進んだ住宅地の中を進むと緑の森が忽然と現れ、鮮やかな若葉が目にしみる。新緑に囲まれた長池ネイチャーセンターで本日の講座が始まった。

●午前 長池公園における活動内容の紹介・園内観察

長池ネイチャーセンターの内野氏、長池里山クラブの赤羽氏から、長池公園の歴史・特徴・生態系などの紹介があった。長池公園は多摩丘陵の原型地形を残しており、自然保全型の公園として 2000 年に完成、20ha の広さがあり、園内を特別保全区域(立ち入り禁止)、保全区域(観察/体験)、利用区域(広場/展望台/バッファ域)に分けている。雑木林の樹木更新のために、15 区画に分けて毎年1区画ずつ樹木を順番に伐採している。園内にはいくつもの池があり、トンボは 43 種類も生息、ホタルはゲンジやヘイケは見られないがそれ以外の 4 種類が生息している。などの説明があり、生態系の豊富さに感嘆するとともに長池公園が貴重な存在であることを認識した。説明の後に園内を案内していただき、植生観察とともに伐採地域の樹木更新状況について説明していただいた。

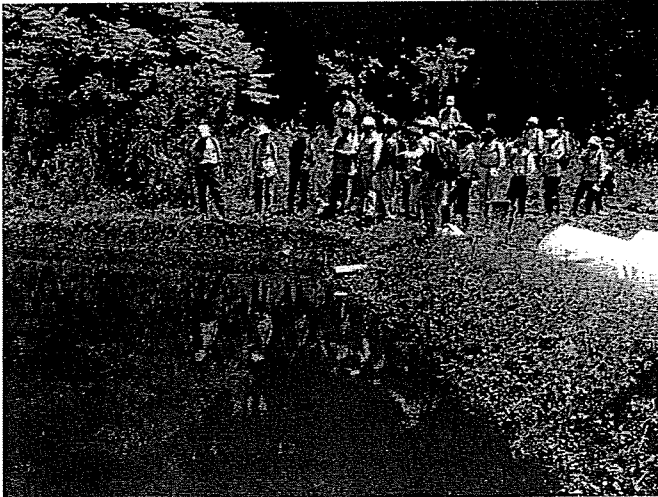
●午後 笹刈り

午前に引き続き園内の樹木更新予定地域を観察の後に、3班に分かれて3地区で笹刈りを行った。3班が担当した 50m² の区域には、48 種類の植物の自生が確認されたということで、植生が豊富であることを認識した。作業終了後に、使ったカマを砥ぎ 3 時半に本日の研修は終了した。立派な作業小屋が準備されており、炭焼きなどの際には泊り込みもできるとのことで、大勢の人が活動に参加しやすい環境が整っておりうらやましく感じた。



●編集後記

花が盛りの樹木がたくさんありました。白い花びらをピンクのガクが飾ったサラサウツギ、枝葉の下に白い花を咲かせたエゴの木、枝葉の上に白い花を掲げたガマズミとミズキ、大きな白い花冠を掲げたホウの木、ラッパ状の白い花のニシキウツギなど。さらには橙色の粒状の実が付いたモミジイチゴ(食べると甘い)なども。日差しは強いが湿気が少なくカラリとしたさわやかな天候の下で、新緑に身も心も洗われた楽しい1日でした。



雑

第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：植物生態について講習・観察・笹刈り

作業場所：G.L.C(午前)、亀ヶ谷緑地(午後)

編集担当：岡田(一班)、小俣(編集長)

前日の天気予報では、本日は雨の予報だったが空も晴れわたり、気温も最高気温 27℃、最低気温 23℃であった。

●午前 G.L.Cにて植物の生態について座学と観察

恵泉女学園大学の宮内先生より樹木について詳しく説明をして頂きました。

落葉樹と常緑樹の説明の中で、タイなどの熱帯地域に落葉樹が広がる地域があり、温帯地域にいる私たちからは不思議な光景だったというお話などとても勉強になりました。また、日本では落葉樹は、福島県より北に行くと多く見られるなど。そして、樹木がなぜ落葉するのかなど環境や性質なども詳しく教えて頂きました。針葉樹、広葉樹についての説明も受ける。

樹木の形態と機構では根について、また幹と枝について、それから樹木の内部の図や組織構造など、詳しく教えて頂きました。へ移動しながら必要ところでエネルギーとして使われて行くことなどを教えていただいた。

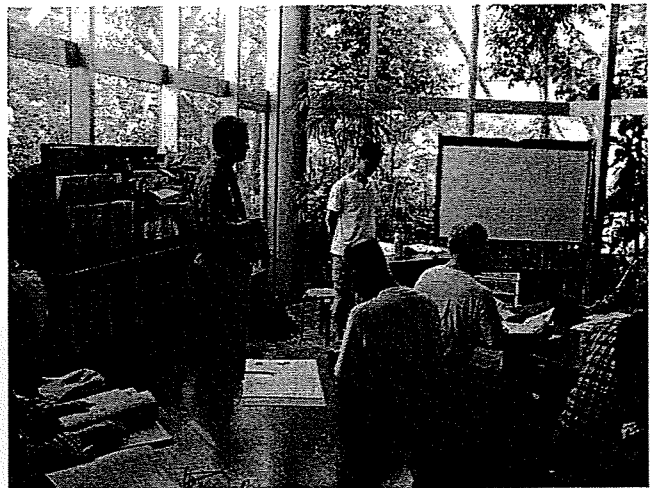
そして葉のつき方はどのような(植物)樹木なのかを知る手がかりになるということも教えていただいた。その後グリーンライブセンターの外に出て座学で説明された樹木についての観察回をしていただきました。互生と対生、植物の名前が分からなくても葉のつき方で植物を分類できるということでした。

●午後 亀ヶ谷緑地

高尾山の自然観察員の先生たちに雑木林を案内して頂く。多摩丘陵は昔から白樫があった場所でくぬぎなど、根から見れば 100 年更新の歴史を持っていることなど、そしてこの雑木林は、足の踏み場がないほど種類豊富な林であり、昔はくぬぎ、コナラ以外は切り倒していたが、今は生態系ゆたかな雑木林づくりをしているそうです。今の時期にしか咲かない野草のねじ花、ホトトギス、くずの葉などなど見ることができた。それからコゲラが鳴いていた。最後にそれらを残すように笹を刈って終了した。

●編集後記

植物の名前がなかなか覚えられなくても葉のつき方で分類できるようになり、植物がより身近になったような一日だった。



葉で生産された糖は濃度の高い方から低い方



標

平成 19 年 7 月 28 日号

第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：竹林の管理、植生調査。

作業場所：中央公園および G.L.C. (午前午後とも)

編集担当：小俣

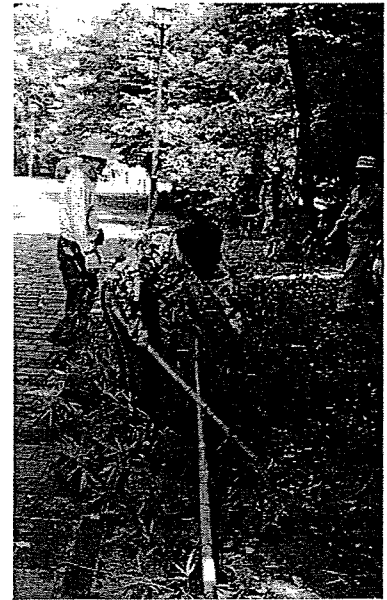
今回も天気に恵まれて晴れたが暑い。熱中症にならないように水分をこまめに補給しながら作業する。水分補給にはスポーツドリンクや食塩水が良い。食塩水の目安は 500ml のペットボトルに指 3 本で二滴み程度。

●午前 G.L.C.および多摩中央公園にて竹林の生態と手入れについて

竹は芝や稲などのイネ科といわれていたが最近ではタケ亜科に分類されることもある。その後、竹と笹の違いやタケノコが一日に伸びる量は？などクイズのように竹の生態について学んでいきました。竹の枝が逆さまに生えたようなテングス病は竹特有のものではないそうですが竹の不思議さに一役買いました。テングス病は活力を失った竹林で発生し対策は切っただけで燃やすのが一番。

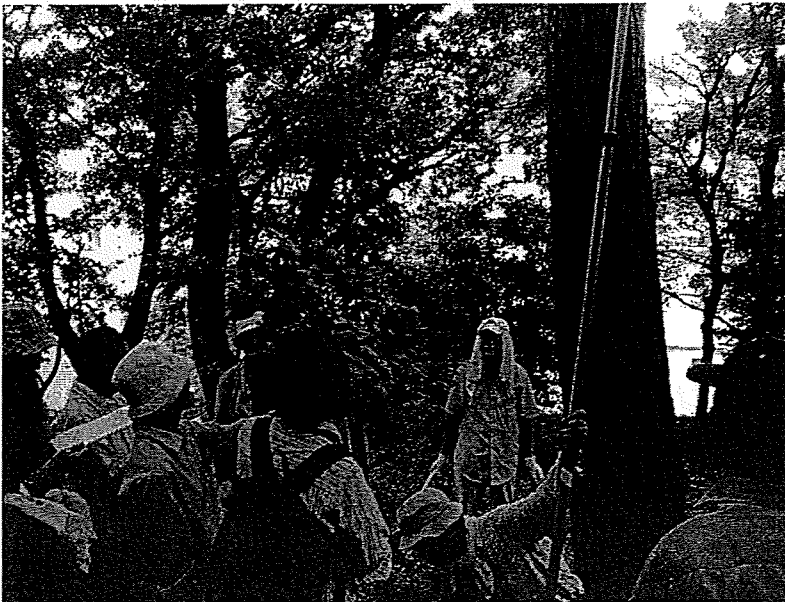
そして一番の神秘は開花周期。60 年や 120 年(マダケ)と言われる長生きなのかと思ってしまうが寿命は 10 年程度らしい。だから手入れも開花を考える必要はないようだ。

竹の伐採も木と似ているが切り跡を節の上で平らにする。それは、斜めに切ると刺さって危険だし節と節の間で切るとそこに水が溜まり腐ってしまうからだ。竹の枝払いは力の方向できれいに落とせるがまだまだ練習がいりそうだった。



●午後 多摩中央公園で植生調査し G.L.C.で調査報告

本講座も今回を含め残り 4 回となり、これからは雑木林の管理についても本格的に学んでいくそうです。



それで、まずは元となる調査をしました。調査手法はコドラート法を用い、10m×10m の方形の枠を設定しその中の植物の名前・位置・枝の広がりなどを記録紙に図示していきました。

初めは小さな区域だと思っていましたが、いざ記入すると広い。結構大変でした。光量や裸地などの情報も記入しました。

G.L.C.に戻ってから、調査結果をまとめて植生調査の報告をして終了しました。

●編集後記

今までは植物中心の講座だったのが今回から環境活動に移った感じがした。調査などで植物を記録すると身近に感じる。やはり調査は環境活動の基本のような感じがした。

楽

第 6 期多摩グリーンボランティア講座の活動記録

活動項目：土と土壤生物について、
腐葉土づくり、樹木活力度調査。

作業場所：一本杉公園

編集担当：穂苅(三班)、小俣(編集)

猛暑は一服したが、快晴で残暑が厳しい1日。午前には加藤家の室内で新妻先生による講義、午後は屋外での作業を行った。

●午前：土と土壤生物について座学

土壤の形態は深さ方向で変化し、落葉が堆積し腐敗が進む層(O層)、腐敗が進行した有機物と無機物の混合層(A層)、粘土化が進んだ層(B層)、土壤母材層(C層)などに区分される。植物が根を張り生育できるのはO層とA層で、表面の数十cmの厚みに過ぎない。これら表層の土壤は、腐った物質が土粒子



を団子状に粘着集合し小さな塊(団粒)を作り、これら団粒間の隙間に水や空気を保持するので、バクテリアが繁殖し小動物が生息し植物が生長できる環境を作っている。また、先生が公園内で採取した土壤の中にどのような小動物がいるかをルーペで観察し、ムカデ類やワラジムシなどを確認した。

続いて、先生が調査し書かれた「ダーウィンとミズと地球の歴史」について解説があった。そのミズは糞を排泄することで、1年間に6mmずつ土壤表面をおおってゆくという(日本のミズではこうはいかないそうだ)。ミズのような小さな動物でも、長い年月では地層に残るような大きな働きをすることにびっくり。ダーウィンについては進化論が有名であるが、ミズの研究をしていた(30年間も)とは知らず、興味深い話だった。

●午後：腐葉土の天地返し、樹木活力度調査、シイタケホダ木観察

2月の作業で作った腐葉土置き場で、腐葉土の上部と下部を入れ替える作業をした。枠の高さまで一杯になるほど踏み固めてあった落葉は、腐敗して底にわずか残る程度。横板を1枚はずし腐葉土の上部をかき出すと、白いむっちりとしたカブトムシの幼虫が続々と現れる。殺さないようにポリバケツに移すと見る見るいっぱいになる。その数なんと209匹。これらは来年には成虫になるということで、生態系が豊かなことを改めて感ずる。腐葉土を全部かき出した後、先にかき出した上部の腐葉土を再び運び込み、続いて下部にあった腐葉土を積み重ねる。途中、発酵促進のために米ぬか1.5袋を混ぜ込む。最後にカブトムシの幼虫を腐葉土置き場に放し、作業を終了した。



次に、クヌギとコナラを植えた斜面に移動し、これら樹木の活力度調査を行う。樹形や樹勢をはじめ、葉の斑点や枯れた状況から根の成長が正常かを判断する「ネクロシス」についても教えていただいた。調査終了後、菌を植え込んだシイタケホダ木の生育状況を観察して本日の作業を終了した。

●編集後記

ダーウィンのミズの研究の話では、イギリスまで出かけてダーウィンが研究を行った庭を掘ってみた、図書館で原書を手にしたなど、先生のダーウィンに対する熱い思い入れには頭が下がりました。